

長崎県総合水産試験場 平成24年度試験研究概要

	テーマ名	平成24年度計画概要	研究期間	研究種別
漁業資源部 海洋資源科	資源評価調査(TAC)	・重要資源(アジ・サハ・イワシ類、マダイ、ヒラメ、ブリ、アカムツ、イナなど)の各種調査(生物統計調査、漁獲統計調査、産卵調査、新規加入量調査など)を行う。 ・調査結果は、平成24年現在の資源評価の基礎資料とする。	H12-	受託研究
漁業資源部 海洋資源科	日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査委託(ヨコワ)	・クロマグロ幼魚(ヨコワ)やカジキ類の漁獲統計調査、生物統計調査を行う。 また、得られた資料をもとに対馬地区のヨコワ漁況予報を発表する。 ・さらに、GPSデータロガーを用いてヨコワ漁獲状況調査を行う。	H4	受託研究
漁業資源部 海洋資源科	地域型資源管理予測技術開発試験	・県北海域カタクチイワシ、壱岐対馬ケンサキイカの資源評価手法開発のための基礎知見を得るため、漁獲統計調査、生物統計調査等を行う。	H9-	経常研究
漁業資源部 海洋資源科	漁海況情報提供強化事業	県内の漁海況情報、九州北西海域の水温情報、鳥取県から長崎県にかけてのケンサキイカ漁獲状況などを発信する。	H21-25	経常研究
漁業資源部 海洋資源科	資源管理・漁業所得補償対策 (資源回復計画作成推進事業)	・対馬周辺海域におけるアマダイ資源評価を行うため、漁獲実態調査や生物統計調査等を行う。 ・対馬周辺海域におけるアマダイ資源回復計画の検討を行う。	H23- (H18-22)	行政要望
漁業資源部 海洋資源科	大型クラゲ出現調査及び情報提供事業	・各普及センターからの大型クラゲ出現状況報告を取りまとめ、関係機関へ発信する。 ・小型飛行機による大型クラゲの目視調査を行う。	H20-24	受託研究
漁業資源部 海洋資源科	沿岸漁業開発調査	新規や見直しを検討している2漁場について、海底地形や流況調査に基づく診断、助言を行う。 定置網水中灯試験を行う。	S61-	経常研究
漁業資源部 栽培漁業科	資源を育む長崎の海づくり事業	トラフグ 有明海50万尾放流(内25万尾標識) 放流効果の推定 ・有明海当歳魚 ・外海域1~8歳魚(広域連携調査により効果を推定) ・有明海2~8歳魚 アマダイ 標識放流(10cm、4千尾) 追跡調査	H22-24	行政要望
漁業資源部 栽培漁業科	ヒラメ資源回復共同放流推進事業	ヒラメ資源の回復を図るために、効果的な放流手法を確立するとともに、関係県との共同放流に向けた基礎知見となる放流効果調査を実施する。 標識放流 県内各栽培漁業推進協議会により合計500千尾、内250千尾の標識放流。 (鱗切除+ALC標識で区別) 放流効果調査 県内主要市場において放流効果調査を行い、放流群別の混入率や回収率等の推定を行う。	H23-27 (H20-22)	行政要望
漁業資源部 栽培漁業科	放流種苗の評価基準づくり事業	放流効果をより高めるため、活力等の種苗の質を評価する手法を確立するとともに、放流効果への影響を明らかにし、放流種苗の評価基準を作成する。 放流種苗の評価手法の検討 放流効果への影響試験	H22-26	経常研究

長崎県総合水産試験場 平成24年度試験研究概要

	テーマ名	平成24年度計画概要	研究期間	研究種別
漁業資源部 栽培漁業科	有用水産生物を利用した閉鎖性水域の環境改善手法の開発(ナマコ)	閉鎖性水域(大村湾)の環境改善に向け、海底の有機物等を摂餌する有用水産生物のナマコを増殖させて漁獲することで同湾のリンや窒素量の軽減を図る。そのために必要なナマコの再生産機構の解明や効率的な種苗の採取方法、効果的な放流手法を開発する。 親ナマコ分布調査 浮遊幼生分布調査 稚ナマコ分布調査 効率的な稚ナマコの採取・効果的な移植放流方法の開発	H22-24	戦略プロジェクト
漁業資源部 栽培漁業科	クエ資源管理技術開発事業	漁獲実態や資源生態の基礎的な知見を明らかにし、資源的確な評価を行うとともに効果的な放流手法の開発を併せて行い、適切な資源管理手法の検討を行う。 漁獲実態調査 資源生態調査(標識放流による移動回遊) 標識放流試験 放流追跡調査 市場調査	H23-27	経常研究
漁業資源部 栽培漁業科	有明海漁業振興技術開発事業	(栽培漁業科) 有明海における水産資源の回復等による漁業の振興を図るため、クルマエビ、ガザミ、トラフグ等漁業生産上重要な資源について、放流技術の開発に取り組む。 標識放流 放流効果の推定 等	H24-26 (H21-23)	行政要望
種苗量産技術 開発センター - 介藻類科		(介藻類科) タイラギの人工種苗生産による種苗の安定確保の技術開発、タイラギの天然稚貝確保の漁場改良技術開発(漁協への支援、現場調査)、マガキシングルシードの養殖実用化技術開発(漁協への支援)		
種苗量産技術 開発センター - 魚類科	良質な種苗の生産技術開発研究事業	・クエについては形態異常の軽減化試験及びウイルス防除対策に取り組む。 ・クロマグロについては、初期生残率の向上を目指した飼育環境試験を行う。 ・カワハギについては、天然親魚および養成親魚から産卵を行い、飼育試験を行うことで高成長、高生残率等の生産群を選抜する。	H23-27	経常研究
種苗量産技術 開発センター - 魚類科	養殖魚類の育種技術開発研究事業	・人工種苗の性コントロール技術の開発でトラフグについては全雄化、ホシガレイについては全雌化技術開発に取り組む。 ・トラフグ・ハタ類について優良品種作出のための技術開発を行う。	H23-27	経常研究
種苗量産技術 開発センター - 魚類科	天然資源に依存しない持続的な養殖生産技術の開発 「クロマグロの種苗量産に向けた飼養技術の高度化」	・クロマグロ健全種苗の生産に向けた飼餌料の開発と種苗生産期における仔稚魚の減耗防除技術の開発に取り組む。 魚類科担当部分:「仔稚魚の減耗防除技術の開発」で、仔魚期から発生する共食い防除技術の開発、種苗生産過程に見られる衝突死防除対策の2課題に取り組む。	H24-28	受託研究
種苗量産技術 開発センター - 介藻類科	重要貝類種苗生産基盤技術開発	アワビの着底初期および初夏の斃死軽減に有効な技術改良、クロチョウガイの種苗生産および稚貝飼育などの基礎試験等を行う。	H20-24	経常研究

長崎県総合水産試験場 平成24年度試験研究概要

	テーマ名	平成24年度計画概要	研究期間	研究種別	
種苗量産技術 開発センター - 介藻類科	貝類の新養殖技術開発	マガキのシングルシードを用いた効率的な養殖方法(開始時期、種苗サイズ、管理方法等)と、タイラギ小型稚貝の中間育成方法などの技術開発を行う。	H23-27	経常研究	
種苗量産技術 開発センター - 介藻類科	諫早湾貝類の漁場有効利用技術 開発	アサリ・マガキ・タイラギについて、生産安定を図るため干潟や沖合い漁場を有効に機能させるための技術開発を行う。 1. アサリ漁場の底質改善手法 2. アサリの適正密度と漁場の有効利用方法の検討 3. マガキの漁場の効果的な利用方法の検討 4. タイラギの生息調査、新規覆砂漁場の評価等	H24-28	経常研究	
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	高品質真珠生産確保促進対策事業	高品質真珠生産のためのCA活性を指標とした選抜ピース貝による挿核試験や育成試験、外套膜萎縮現象における消化吸収細胞の生理障害を主とする貝の健全性を検討する。	H20-24	行政要望	
種苗量産技術 開発センター - 介藻類科	温暖化に対応した藻類増養殖技術 開発	・藻場のモニタリング調査の継続 ・ノリ養殖の適正管理指導及び状況把握 ・ヒジキ種苗の大量培養と育苗試験、天然種苗の採取によるヒジキ漁場への影響調査と適正な管理方法の検討	H20-24	経常研究	
種苗量産技術 開発センター - 介藻類科	漁場の環境・生態系保全活動総合 対策事業	「磯焼け対策モデル地区」における春藻場造成の実施(H23～27)、および県内各地の磯焼け対策の取り組みに係る調査・指導等を行う。	H23-27	行政要望	
種苗量産技術 開発センター - 介藻類科	水産分野の温暖化適応技術開発 (暖流系の藻場生態系への温暖化の 影響評価と適応技術の開発)	平戸市度島地区と新たに1地区を選定し、H23年度と同様調査を継続実施。	H22-26	受託研究	
漁業資源部 栽培漁業科	水産加工開発 指導センター 加工科	水産物供給体制づくり技術育成事業	長崎県の有する独自技術や長崎らしさまた食べやすさ等をコンセプトとして、 加工に関する指導(開放実験室(オープンラボ)による指導・水試特許技術等の普及・指導) 魚介類の品質に関する指導(輸送技術に関する開発・指導・鮮度保持技術に関する開発・指導 研究成果の普及(研修会や巡回指導の実施・水産加工振興協会との連携)を行う。	H24-28	経常研究
水産加工開発 指導センター 加工科	水産加工原料確保のための新原料 開発	低未利用魚を新たな加工原料として利用する方法を開発する。 低未利用魚の特性の把握 ねり製品原料の開発ハガツオ等の自己消化解析シイラ等のゲル形成能解析 既存塩干品の品質向上法の開発キダイのタンパク変性の解析 塩干品原料の開発シイラ、サンマ等の離水率・塩溶解性解析 引き続きクエン酸塩を用いた干物の開発、普及を実施	H21-25	経常研究	
水産加工開発 指導センター 加工科	魚価向上及び高品質な水産物、 水産加工品の提供を目指した品質 測定機器の開発	魚類の鮮度、脂肪量、冷凍履歴などの品質測定機器の開発を共同で行う。 魚類の品質推定についてプロトタイプによる実用レベルでの可能性を検討。	H22-24	受託研究	

長崎県総合水産試験場 平成24年度試験研究概要

	テーマ名	平成24年度計画概要	研究期間	研究種別
水産加工開発 指導センター 加工科 環境養殖技術 開発センター 養殖技術科	海外輸出に向けた活魚輸送技術 の開発	本県水産物の輸出拡大のため、海水浄化システムを利用した活魚輸送水槽を開発し、海外へ向けた輸送試験を行う。 長時間輸送に伴う魚の生理反応の把握 活魚の海上輸送のためのハードウェア開発 海水の浄化効率向上のための技術開発	H24-26	戦略プロジェクト
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	有害赤潮プランクトン等総合対策事業 旧:有害赤潮プランクトン等監視調査事業 (国庫補助:食の安全・安心確保交付金事業) (国庫委託:赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業)	1.現場調査 橘湾・有明海連続調査(6回)、諫早湾(6回)、九十九島(6回)、伊万里湾及び大村湾(各1回)、薄香・古江湾(2回) 2.赤潮動態予測手法の検討(シャトネラ・カレニア) 3.有効な防除方法の検討(シャトネラ・カレニア) 4.貝毒発生監視調査(国+県) 浅茅湾・三浦湾、橘湾での貝毒とプランクトン調査 5.その他 ・赤潮情報の収集と伝達 ・現地研修会の開催	H24-28 (H19-23)	経常研究 受託研究
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	有明海特産魚介類生息環境調査	小長井漁港周辺でのシャトネラ赤潮を抑制する手法の開発。 諫早湾外から小長井釜地区を経由して移動する貧酸素水塊貧酸素水塊の挙動の把握。 被覆網設置による、アサリ稚貝の集積効果やナルトビエイ等の食害防止効果試験	H21-24	行政要望
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科	内湾漁場の有効活用技術開発	小長井地先貧酸素関連の漁場環境調査等諫早湾におけるプランクトンの分布調査を実施。 対馬真珠漁場環境調査 対馬のマグロ養殖場における春季へい死要因の解明 橘湾の貧酸素調査	H22-26	経常研究
環境養殖技術 開発センター 漁場環境科 漁業資源部 海洋資源科	漁場環境保全対策費 旧:有明海粘質状浮遊物原因究明・予測手法開発事業	主に5月中旬から下旬にかけて発生する粘質状浮遊物の分布状況把握、情報伝達を行なう。	H19-23	行政要望
環境養殖技術 開発センター 養殖技術科	戦略的養殖業を推進する技術の開発	1.新魚種養殖技術開発試験(海面:カワハギ等、陸上:クエ等) ・カワハギ養殖試験(陸上・海上 委託試験含む) ・クエ、キジハタ養殖試験 2.肉質試験(餌料、給餌頻度による脂質の変化) ・ブリ脂質含量の分析、官能検査	H24-28	経常研究
環境養殖技術 開発センター 養殖技術科	魚病対策技術開発	1.抗病性を有する家系探索 トラフグやせ病 ・親魚入手と養成 ・抗病性試験手法の開発等 2.疾病対策技術の開発 ・マグロ住血吸虫症対策試験 ・連鎖球菌症対策試験等 3.魚病診断・指導 ・ヒラメクドア属粘液胞子虫症 ・アワビのキセノハリオチス症等	H24-28	経常研究
環境養殖技術 開発センター 養殖技術科	競争力ある養殖魚づくり推進事業	1.無・低魚粉配合飼料開発 ・マダイ(継続1才)について養殖試験 2.県特産品(ツバキ)等の有効利用による飼料の開発	H22-27	行政要望

長崎県総合水産試験場 平成24年度試験研究概要

	テーマ名	平成24年度計画概要	研究期間	研究種別
環境養殖技術 開発センター 養殖技術科	安全・安心養殖魚づくり推進事業	・コイヘルペスウイルス症対策	H18-	行政要望
環境養殖技術 開発センター 養殖技術科	陸上養殖振興プロジェクト推進事業(水産振興課令達予算)	新技術(電気分解ろ過)及び自然エネルギー(地中熱)等を利用した低コスト陸上養殖システムを開発 ・試験区(30t)電解ろ過、地中熱 ・対照区(30t)生物ろ過 ・養殖試験	H24-25	行政要望